

### 3. 評価指標

#### 3-1 評価指標・目標の考え方

本計画で掲げている交通体系の実現に向けて、以下に示す3つの点を考慮した「評価指標・目標」を設定します。

##### (1) 交通施策の体系化(パッケージ化)に対応した指標・目標

本計画では、前述したパッケージごとに対応した指標、目標を設定します。

##### (2) わかりやすく定量的な指標・目標

「評価指標の明示化」(定量的で分かりやすいアウトカム指標など)が求められるため、可能な限り定量的な指標、目標を設定します。

##### (3) 効果計測が可能な目標

本計画では、PDCAサイクルによる効果の計測と状況に応じて計画の見直しを行うため、比較的容易に効果計測ができる目標を設定します。

#### 3-2 評価指標の設定

前記の考え方に基づき、パッケージごとにわかりやすく容易に収集が可能と考えられる評価指標(代表指標)として、以下のとおり設定します。

##### (1) 拠点のまちづくり支援パッケージ

～地域特性に応じた『拠点のまちづくり』を支える～

代表指標	①歩道バリアフリー化整備率 <sup>4</sup> ②公共交通分担率 <sup>5</sup> (地下鉄・JR・バス・路面電車)
------	--

生活拠点におけるまちづくりを進める上で、暮らしやすい環境を創出することが重要です。

今後の超高齢社会を見据え、「歩いて暮らせるまちづくり」を進めるためにも、駅周辺等におけるバリアフリーな歩行環境の形成や、自動車に頼らなくても移動に支障のない地域交通環境を創造することが重要であることから、上記指標を設定しました。

<sup>4</sup> 「新・札幌市バリアフリー基本構想」(平成20年度策定)で設定されている重点整備地区53箇所を対象。

<sup>5</sup> 総トリップに対する公共交通機関を利用したトリップの割合。